

2012年(平成24年)12月29日

第3種郵便物認可 王亮 王求 羨斤 卓辰

期待の事業次々始動

国際物流拠点化へ期待

県産品などのアジア展開に向けた機運が高まった。全日本空輸（ANA）の那覇空港を拠点（ハブ）にした国際航空貨物事業を活用して、ヤマト運輸が11月から「国際宅急便」をスタートした。県外の県産品をアジアに届けるサービスも始まっている。さらに薄路でも沖縄からの移輸出拡大に向けた取り組みが進む。県内の経済界も国際物流拠点化に大きな期待を寄せ、県産品のアジア展開を視野に、港灣のハブ化に向けて構想を具体化させている。

ヤマト運輸は、那覇空港に隣接する国際物流拠点産業集積地域に県が整備した物流センターに入居し、11

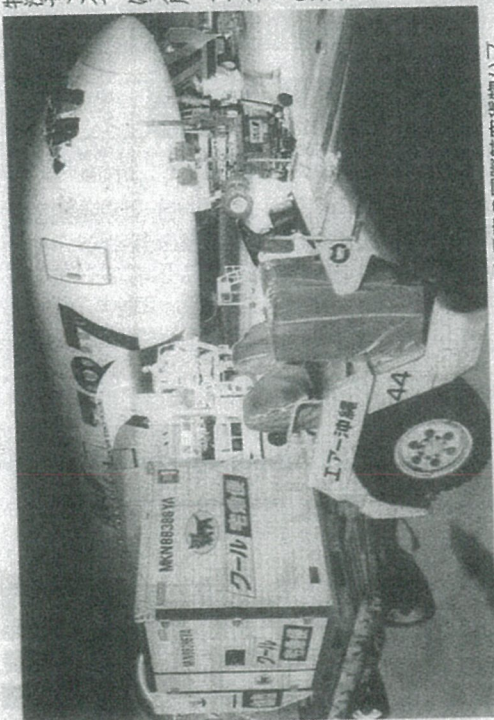
月15日から国際宅急便を始め、従来の国内からアジア各地へ3〜4日かかっていたのが翌日配達を可能にした。さらに来年早々に国際クール宅急便も始める予定で準備を進めている。ANAのハブ事業を活用し、長野のリンゴを薄路宅急便で配送するサービスなども、国内の県産品をアジアに届ける事業を拡大させる。

物流の大半を担う海運を支える那覇港については、国際物流拠点化で外国船のコンテナの積み降ろしに活躍するガントリークレーンの整備も進む。総合物流センター（ロジスティックセンター）の2013年度からの整備に向け、可能性調

査事業も実施した。県などは、空と海のハブ機能を高立させ、臨港・臨空産業の展開を描いている。

経済界からの期待も熱い。国際物流拠点の形成に向け、沖縄と本土の経済人

でつくる沖縄懇話会が14日に大城国際商談会沖縄大交易会の開催を決めた。



県産品を含む国内の特産品をアジアへ展開する全日空の国際航空貨物ハブ事業＝8月3日、那覇空港